

# 両不等式 2数の大小に関する試み

たかはし としお  
高橋 敏雄

## 1. はじめに

不等式の扱う証明は、極めて煩雑であると言わなければならない。証明は、基本的に次の3点である。

- ①  $A > B \Leftrightarrow A - B > 0$
- ②  $A > 0, B > 0$  のとき,  $A^2 > B^2 \Leftrightarrow A > B$
- ③ 相加・相乗平均の関係(ただし, この不等式は②で証明できる)

この不等式を扱う諸演習問題を解くにつけ, 大変面倒臭いやり方であり, 旧態依然であるように, 私には思われる。しかし, 確かに不等式の証明は, 方程式に比べるとより数学的ではあり, 論理的に展開させるのであるから, 当然今後とも揺るぎない分野であることは言うまでもない。ただ,

「 $\sqrt{5} - \sqrt{3} > \sqrt{8} - \sqrt{6}$  を証明せよ」の解答では, “数研出版の新制チャート式基礎からの数学A”は, **指針** にこう書いている。

直接平方すると  $8 - 2\sqrt{15}$  と  $14 - 2\sqrt{48}$  で大小不明, そこで,  $\sqrt{5} + \sqrt{6} > \sqrt{8} + \sqrt{3}$  として平方, 整数の部分がかともに11となって消えるから,  $\sqrt{30}$  と  $\sqrt{34}$  の比較になってO.K.

私は, この問題がきわめて作為的であると思うのであるが, それにしてもどうして,  $8 - 2\sqrt{15}$  と  $14 - 2\sqrt{48}$  で大小不明, と書かなければならないのであろうか。数学を解く, ということは粘りが必要である。早々と退却をしてはいけない。この大小も解かれなければいけないのである。

以下に述べることは, まさに一步進めた不等式の解法と考えていただきたい。

## 2. 両不等式

〈定義〉

- (i) 記号  $<$  を両不等号という。  $<$  を左不等号,  $>$  を右不等号と呼ぶ。
- (ii)  $a$  と  $b$  の大小が分からないとき  $a < > b$  と書き, この式を両不等式という。

計算の結果  $a < > b$  となったとき, 左不等式が成り立つ

$a < > b$  となったとき, 右不等式が成り立つ と言う。

### ●基本性質

- ①  $a < > b$  と  $b < > a$  は同値ではない。
- ②  $a < > a \Leftrightarrow a = a$   
 $a < > b$  かつ  $b < > a \Leftrightarrow a = b$
- ③  $a < > b \Leftrightarrow a + c < > b + c, a - c < > b - c$
- ④  $a < > b$  かつ  $c > 0 \Rightarrow ac < > bc, \frac{a}{c} < > \frac{b}{c}$
- ⑤  $a > 0, b > 0$  のとき  
(i)  $a < > b \Leftrightarrow a^2 < > b^2$   
一般に (ii)  $a < > b \Leftrightarrow a^n < > b^n$

(注)  $a > 0, b < 0$  とすると  $a < > b$  は自動的に  $a < > b$  となる。

- ⑥  $a < > b$  かつ  $c < > d \Rightarrow a + c < > b + d$
- ⑦  $a < > b$  かつ  $c < > d \Leftrightarrow a - d < > b - c$
- ⑧  $a > 0, b > 0, c > 0, d > 0$  のとき

$$a < > b, c < > d \Rightarrow ac < > bd$$

(注) 両不等式の不等号の向きを変えるような操作を, 絶対にしてはいけない。

〈規約〉

- (iii)  $a < > b \Leftrightarrow a_1 < > b_1 \Leftrightarrow a_2 < > b_2 \Leftrightarrow \dots \Leftrightarrow a_n < > b_n$  のとき  
 $a_n < > b_n \Rightarrow a < > b$  ie  $a > b$   
 $a_n < > b_n \Rightarrow a < > b$  ie  $a < b$
- (iv)  $A, B$  は整式 or 分数式とする。  
 $A < > B \Leftrightarrow A_1 < > B_1 \Leftrightarrow A_2 < > B_2 \Leftrightarrow \dots \Leftrightarrow A_n < > B_n$  のとき

$$A_n = B_n = 0 \Rightarrow A = B \text{ は恒等式である。}$$

(注) 「 $a < > b$  かつ  $c < > d$ 」と言った場合, 2つの両不等式の不等号の向きは同じものとする。したがって, 例えば,  $a < > b$  を変形して,  $c < > d$  がでてきたとき, これに当たる。

### 3. 両不等式の応用

問題1  $\sqrt{3}+\sqrt{8}$  と  $\sqrt{5}+\sqrt{6}$  の大小を調べよ.

(解)  $\sqrt{3}+\sqrt{8} < > \sqrt{5}+\sqrt{6}$  …… ①

両辺平方して  $11+2\sqrt{24} < > 11+2\sqrt{30}$

$$\sqrt{24} < > \sqrt{30}$$

$$24 < > 30 \quad \dots\dots ②$$

②は、左不等式となるから、①の両不等式は左不等式となり

$$\sqrt{3}+\sqrt{8} < \sqrt{5}+\sqrt{6}$$

問題2  $2\sqrt{17}$  と  $\frac{135}{2\sqrt{38}+\sqrt{17}}$  との大小を調べよ.

(解)  $2\sqrt{17} < > \frac{135}{2\sqrt{38}+\sqrt{17}}$

$$2\sqrt{17}(2\sqrt{38}+\sqrt{17}) < > 135$$

$$4\sqrt{646} < > 135-34$$

$$4\sqrt{646} < > 101$$

$$16 \cdot 646 < > 101^2$$

$$10336 < > 10201$$

よって、 $2\sqrt{17} > \frac{135}{2\sqrt{38}+\sqrt{17}}$

(注)  $2\sqrt{38}+\sqrt{17}$  を有理化すれば容易に解けるが、両不等式の特徴を出すためにこのように解いた.

問題3  $\sqrt[3]{4}+4\sqrt[3]{2}-7$  の正負を判定せよ.

(解)  $\sqrt[3]{4}+4\sqrt[3]{2}-7 < > 0$  …… ①

両辺に  $\sqrt[3]{2} (>0)$  を掛ける

$$2+4\sqrt[3]{4}-7\sqrt[3]{2} < > 0 \quad \dots\dots ②$$

$$① \times 7 + ② \times 4$$

$$7\sqrt[3]{4}+28\sqrt[3]{2}-49 < > 0 \quad \dots\dots ①'$$

$$8+16\sqrt[3]{4}-28\sqrt[3]{2} < > 0 \quad \dots\dots ②'$$

$$①' + ②' \text{ 性質⑥より}$$

$$23\sqrt[3]{4}-41 < > 0$$

$$23\sqrt[3]{4} < > 41$$

$$23^3 \cdot 4 < > 41^3$$

$$48668 < > 68921$$

よって、 $\sqrt[3]{4}+4\sqrt[3]{2}-7 < 0$

問題4  $k > 0$  のとき,

$\sqrt{k} + \frac{1}{\sqrt{k+1}} > \sqrt{k+1}$  を証明せよ.

(解)  $\sqrt{k} + \frac{1}{\sqrt{k+1}} < > \sqrt{k+1}$  …… ①

両辺に  $\sqrt{k+1}$  をかける.

$$\sqrt{k(k+1)} + 1 < > k+1$$

$$\sqrt{k(k+1)} < > k$$

$$k(k+1) < > k^2$$

$$k > 0 \text{ より } k+1 < > k$$

$$\therefore 1 < > 0 \quad \dots\dots ②$$

②より、①は  $\sqrt{k} + \frac{1}{\sqrt{k+1}} > \sqrt{k+1}$

問題5  $a > 0, b > 0$  のとき,

$\sqrt{a+b} < \sqrt{a} + \sqrt{b}$  を証明せよ.

(解) 両辺正であるから,

$\sqrt{a+b} < > \sqrt{a} + \sqrt{b}$  の両辺を平方する.

$$a+b < > a+2\sqrt{ab}+b$$

$$0 < > 2\sqrt{ab}$$

$$\therefore \sqrt{a+b} < \sqrt{a} + \sqrt{b}$$

(性質)

$$\text{⑨ } a < > b \text{ かつ } b < > c \Rightarrow a < > c$$

$$\text{(証) } a < > b \text{ かつ } -c < > -b$$

$$\text{辺々加えて } a-c < > 0 \quad \therefore a < > c$$

$$\text{⑩ } a > b \text{ のとき } a < > b+c \Rightarrow c_0 < > c$$

ただし、 $c_0$  は  $a=b+c_0$  を満たす.

$$\text{(証) } a=b+c_0 \text{ より } a < > b+c \text{ に代入}$$

$$b+c_0 < > b+c \quad \therefore c_0 < > c$$

問題6  $k \geq 2$  のとき,

$3^k > 4k \Rightarrow 3^{k+1} > 4(k+1)$  を証明せよ.

(解)  $3^k = 4k + c_0$  とおく ( $c_0 > 0$ )

$$3^{k+1} < > 4(k+1) \quad \dots\dots ①$$

$$3 \cdot 3^k < > 4(k+1)$$

$$3(4k+c_0) < > 4(k+1)$$

$$12k+3c_0 < > 4k+4$$

$$3c_0 < > -8k+4$$

$$c_0 < > -\frac{4}{3}(2k-1)$$

$$k \geq 2 \text{ より } -\frac{4}{3}(2k-1) < 0$$

$$c_0 = 3^k - 4k > 0 \text{ であるから}$$

$$c_0 < > -\frac{4}{3}(2k-1)$$

$$\text{①より } 3^{k+1} > 4(k+1)$$

#### ●両不等式の解法

(例)  $2x+3 < > 5x-6$  を解け.

(解)  $2x+3 < > 5x-6$

$$9 < > 3x$$

$$\therefore 3 < > x$$

(例)  $(x-1)(x-2) < > 0$  を解け.

$x > 1$  のとき

$$x-2 < > 0 \quad \therefore x < > 2$$

$x < 1$  のとき  $x - 1 < 0$  であるから

$$0 < > - (x-1)(x-2), \quad - (x-1) > 0$$

$$\therefore 0 < > x-2 \quad \therefore 2 < > x$$

または  $x > 2$  のとき  $x < > 1$

または  $x < 2$  のとき  $1 < > x$

問題7  $a, x, y$  は正数とすると,  $\frac{x}{y}$  よりも  $\frac{x+a}{y+a}$

のほうが1に近いことを証明せよ.

ただし,  $x \neq y$  とする.

$$\text{(解)} \quad \left| 1 - \frac{x}{y} \right| < > \left| 1 - \frac{x+a}{y+a} \right|$$

$$\frac{|y-x|}{|y|} < > \frac{|y-x|}{|y+a|}$$

$|y-x| > 0$  から  $y > 0, y+a > 0$  であるから

$$\frac{1}{y} < > \frac{1}{y+a}$$

$$\therefore y+a < > y$$

$$\therefore a < > 0$$

$$\therefore \left| 1 - \frac{x}{y} \right| > \left| 1 - \frac{x+a}{y+a} \right|$$

よって,  $\frac{x+a}{y+a}$  のほうが1に近い.

(注) この問題を模範解答するとすれば

$$\begin{aligned} & \left( 1 - \frac{x}{y} \right)^2 - \left( 1 - \frac{x+a}{y+a} \right)^2 \\ &= \left( 2 - \frac{x}{y} - \frac{x+a}{y+a} \right) \left( \frac{x+a}{y+a} - \frac{x}{y} \right) \\ &= \frac{2y^2 + ay - ax - 2xy}{y(y+a)} \cdot \frac{ay - ax}{y(y+a)} \\ &= \frac{(2y+a)(y-x)^2 a}{y^2(y+a)^2} > 0 \end{aligned}$$

よって,  $\frac{x+a}{y+a}$  のほうが1に近い.

<性質>

$$\text{[I]} \quad a < > b+c \Rightarrow c_0 < > c$$

ただし,  $a = b+c_0$  とする.

(証)  $a < > b+c$  に  $b+c_0 = a$  を辺々加える.

$$a+b+c_0 < > a+b+c$$

$$\therefore c_0 < > c$$

問題8  $\sqrt{3}-1$  と  $2-\sqrt{2}$  の大きさを調べよ.

$$\text{(解)} \quad \sqrt{3} = 1+\alpha, \quad \sqrt{2} = 1+\beta$$

ただし,  $0 < \alpha < 1, 0 < \beta < 1$  とする.

$$\sqrt{3}-1 < > 2-\sqrt{2}$$

$$1+\alpha-1 < > 2-(1+\beta)$$

$$\alpha < > 1-\beta$$

$$\alpha+\beta < > 1$$

$$\alpha = 0.732\cdots, \quad \beta = 0.4192\cdots$$

$$\alpha+\beta = 1.146\cdots$$

$$\therefore \alpha+\beta < > 1$$

$$\therefore \sqrt{3}-1 > 2-\sqrt{2}$$

<性質> (2数の大小は, 次の性質から導かれている)

[12] 定義域  $x_1 \leq x \leq x_2$  において, 関数  $y=f(x)$  が

(i) 単調増加関数のとき

$$a < > b \Leftrightarrow f(a) < > f(b)$$

(ii) 単調減少関数のとき

$$a < > b \Leftrightarrow f(b) < > f(a)$$

[12']

(i)  $a > 1$  のとき  $p < > q \Leftrightarrow a^p < > a^q$

$0 < a < 1$  のとき  $p < > q \Leftrightarrow a^p < > a^q$

(ii)  $a > 0, b > 0, x > 0$  のとき

$$a < > b \Leftrightarrow a^x < > b^x$$

(iii)  $a > 1$  のとき  $x_1 < > x_2 \Leftrightarrow \log_a x_1 < > \log_a x_2$

$0 < a < 1$  のとき  $x_1 < > x_2 \Leftrightarrow \log_a x_2 < > \log_a x_1$

(iv)  $-\frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  のとき  $a < > b \Leftrightarrow \tan a < > \tan b$

$$a < > b \Leftrightarrow \sin a < > \sin b$$

$$0 \leq x \leq \pi \text{ のとき } a < > b \Leftrightarrow \cos b < > \cos a$$

問題9 (4TRIAL 数学II p.46 例題22)

(1)  $2\log_2 3, 3\log_4 3$  の大きさを比較せよ.

(解)  $2\log_2 3 < > 3\log_4 3$

$$\log_2 3^2 < > \frac{\log_2 3^3}{\log_2 4} = \frac{1}{2} \log_2 27$$

$$2\log_2 9 < > \log_2 27$$

$$\log_2 81 < > \log_2 27$$

$$81 < > 27$$

$$\therefore 2\log_2 3 > 3\log_4 3$$

(2)  $2^{30}, 3^{20}$  の大きさを比較せよ.

(解)  $2^{30} < > 3^{20}$

$$(2^{30})^{\frac{1}{10}} < > (3^{20})^{\frac{1}{10}}$$

$$2^3 < > 3^2$$

$$8 < > 9$$

$$2^{30} < > 3^{20}$$

問題10  $a, b$  を正の数とすると,

$a^a b^b$  と  $(ab)^{\frac{a+b}{2}}$  との大きさを比較せよ.

(解)  $a^a b^b < > (ab)^{\frac{a+b}{2}}$

両辺を平方して  $a^{2a} b^{2b} < > (ab)^{a+b}$

$$a^{2a} b^{2b} < > a^{a+b} b^{a+b}$$

$$a^{a-b} < > b^{a-b} \quad \dots\dots (*)$$

(i)  $a-b>0$  ie  $a>b$  のとき  
 (\*)から  $a<>b \therefore a<>b$   
 $\therefore a^a b^b > (ab)^{\frac{a+b}{2}}$

(ii)  $a-b=0$  ie  $a=b$  のとき  
 $a^a <> b^b \therefore 1 <> 1$   
 よって  $1=1$  となり  $a^a b^b = (ab)^{\frac{a+b}{2}}$

(iii)  $a-b<0$  ie  $a<b$  のとき  
 (\*)から  $b<>a \therefore b<>a$   
 $\therefore a^a b^b > (ab)^{\frac{a+b}{2}}$

以上より  $a \neq b$  のとき  $a^a b^b > (ab)^{\frac{a+b}{2}}$   
 $a=b$  のとき  $a^a b^b = (ab)^{\frac{a+b}{2}}$

#### 4. おわりに

両不等式のような解き方をしている人を私は知らない。このような解き方があってもよいのではないかと思う。問題を1から8まで与え、両不等式の方法で解いた例を紹介したが如何であろう。今までの方法をA、両不等式をBとするならば、場合場合によって異なる。ときには、AとBの両方を適用した方がよいというものもある。ただ、高校生が、2数  $\sqrt{5}-\sqrt{3}$  と  $\sqrt{8}-\sqrt{6}$  の大小を調べよと言われたとき、単純に  $(\sqrt{5}-\sqrt{3})^2 - (\sqrt{8}-\sqrt{6})^2$  の計算では時間がかかり過ぎる場合がある。

不等式の証明で、 $0 < x < y, a > 0$  とするとき

$\frac{y}{x}$  と  $\frac{y+a}{x+a}$  の大小は? と聞かれたとき、即

$$\frac{y}{x} - \frac{y+a}{x+a} = \frac{xy+ay-xy-ax}{x(x+a)} = \frac{a(y-x)}{x(x+a)} > 0$$

$$\therefore \frac{y}{x} > \frac{y+a}{x+a}$$

とするか、等式の計算のように

$$\frac{y}{x} <> \frac{y+a}{x+a}$$

$$yx+ay <> xy+ax$$

$$ay <> ax$$

$a > 0$  より  $y <> x$

$$\therefore \frac{y}{x} > \frac{y+a}{x+a}$$

とするかの違いなのである。

以上、私の考えを述べた。不備な点、矛盾点などがあった場合はどうかご指摘をお願いしたい。

〈参考文献〉

数研出版 新制チャート式基礎からの数学A

数研出版 4TRIAL 数学II

(長崎県立大村高等学校)